

株式会社グランテック
整備鉄工部 高橋 隆

初冬より1ヶ月ほど経ちまして、協会員の皆様は、いかがお過ごしでしょうか。

本年度は、記録的な猛暑日を重ねており年々現場環境が厳しくなるに当り、今シーズンの冬は、晴れ間のある穏やかな季節になればと願っております。

さて、季節の変わり目というものは、私たち人間にもなにがしかの影響がありますし、現場への対応も変わってまいります。特に建設機械においては、1年中ほぼ外に待機しながら日々、完全な稼働を求められております。

最近ですが、重機の点検や修理、消耗品の販売問合せを通じて、感じる事があります。ほとんどは不具合箇所を過去の事例から勘案して修理方法を模索しております。若干お時間を頂きまして申し訳ございません。中でも色々な建設機械や車両を実際に確認した時に、一番始めに思う事は、施工オペレータの機械に対する対応と申しますか扱い方が見えてくるようになりました。私が思うに機械が故障するには、なにかの原因があると思います。

現場環境条件も厳しくなるとは思いますが、日常お使いの機械を長持ちさせる為には、適切な点検と日々の始業前点検や正しいメンテナンスを行い、重大事故を防ぐとともに機械寿命の延長を図る事ができます。重機の稼働環境(シビアコンディション)についても考えていきたいと思っております。

今後はメンテナンス情報、機械不具合修理情報等を定期的に発信してまいります。

その稼働環境シビアコンディションではないですか？

機械を設計した時に想定している標準的な使用条件に比べて、より厳しい使用状況の場合には部品やオイル等の劣化が早まり故障することがあります。

特に近年のオフロード法など、排ガス規制強化への対応から排ガス後処理装置を搭載した機械では稼働環境の影響が顕著に出ます。オイル、排ガス後処理装置などの性能低下を最小限に抑えエンジンを正常に保つために、稼働環境に応じた適切なメンテナンスが必要となります。

下記のような運転条件の場合は過酷な稼働環境(シビアコンディション)に該当します。

- ※アイドル状態が多い機械
- ※常にほこりや粉塵のある環境で動く機械
- ※長時間連続して高負荷運転を行う機械
- ※長時間連続して低速運転を行う機械
- ※頻繁にエンジン停止/指導を行う機械



会員一欄

正会員	株式会社 アイ機	株式会社 イートン	株式会社 eco・カンパニー	株式会社 柿崎工務所
株式会社 ジョック技研	地建興業 株式会社	千代田機電 株式会社	株式会社 中川商店	有限会社 平居建設
ビルダーズサポート株式会社	株式会社 福田テクノ	富士貴建装 株式会社	株式会社 ライフベース	株式会社 レクティオ
準会員	株式会社 第一工業	株式会社 日建コンサルティング	株式会社 西尾技建	
協力会員	株式会社 シロタ	株式会社 ヒヨシ	株式会社 セーフテック	
賛助会員	一般社団法人 ハウスワランティ	株式会社 GIR	一般社団法人 不動産検査保証機構 レイウス	
特別会員	株式会社 コンステックホールディングス	株式会社 グランテック		

スクリー・プレス工法 協会だより

Vo.012
2023.12.発行

発行:スクリー・プレス工法協会事務局
TEL:(0766)30-2372
FAX:(0766)30-2566
Email:spassoc.info@cons-hd.co.jp

活動報告

ご挨拶

株式会社 eco・カンパニー
代表取締役
スクリー・プレス工法協会
理事
斎藤 裕

スクリー・プレス工法協会会員の皆様には協会の活動に格別のご理解とご協力を賜り誠に感謝申し上げます。おかげさまで当協会は平成30年4月1日に発足し4年目となっております。正会員14社、準会員3社、協力会員4社、賛助会員3社、特別会員2社、合計26社となり会員も7社増えました。これも、地道に普及活動をしスクリー・プレス工法の良さを採用して下さるエンドユーザーがおり、実績を積み重ねる会員の皆様方のおかげであります。

昨今、地球規模の環境問題がクローズアップされております。我が国でも環境問題について様々な取り組みをしておりますが課題は山積みです。産業革命以降、経済が発展してきた中、化石燃料の使用による大気汚染・有害物質を含む排水による水質汚染・プラスチックごみによる海洋汚染・六価クロムなどの有害物質による土壌汚染等と我々は早急に改善・解決に向けて取り組まなければなりません。100年先の子供・孫・ひ孫世代に今ある美しい地球環境を残してあげるのが我々の使命です。

スクリー・プレス工法は数ある地盤改良工法・杭工法のなかでも時代にフィットした工法ではないでしょうか。①天然砕石のみの為土壌・水質汚染が無い ②液状化対策 ③排水・浸水対策 ④土地の資産価値を下げない ⑤残土を出さない ⑥カーボンニュートラル実現にむけてCO2削減効果 など環境に配慮した工法になります。

まさに『地盤改良 + 環境保全 = スクリー・プレス工法』ではないでしょうか。

住宅着工数が年々減少してきております。今後も増加する気配はありません。そんな中でも、住宅地盤以外の採用例が増えてきています。例えば、工場の土間下改良になります。当社も昨年は非住宅の土間下改良が施工長実績で半分以上でした。今後も非住宅以外の市場へ営業活動を積極的に行っていくことが必要不可欠であると感じております。

スクリー・プレス工法の施工機は標準機と小型機の2種類タイプがあります。小型機は狭小地が多い住宅で採用し、標準機は中規模の土間下改良や大き目の住宅で使用することでコストや品質面で多大な効果を生みます。今後更に導入会社様がなるよう普及に努めて参ります。

末筆ではありますが、会員の皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。



メンテナンス・レジリエンス TOKYO 2023

第5回地盤改良展へ出展いたしました

2023年7月26日(水)~28日(金)の3日間、東京ビッグサイトで開催された展示会に参加しました。



【ブース訪問者数】

7/26	26社	35名
7/27	24社	32名
7/28	28社	45名

当初配布予定としていたパンフレットが足りなくなるほど大勢の方々がブースに足を運んでいただき、スクリー・プレス工法について業種を問わず、たくさんの方に知っていただく大変良い機会となりました。

最上最上へ



スクリー・プレス工法協会
第12回役員会

9月8日(金)に役員会を行いました。本年度の中間報告の他に、より良い協会運営を目指すため、役員で意見交換を行いました。率直な意見や要望など話し合うことができ、大変有意義な役員会となりました。是非今後の協会運営に反映できるよう努めて参りたいと思います。役員の皆様、お忙しい中お集まりいただき誠に有難うございました。



事務局より

第4回スクリー・プレス工法研修を終えて

株式会社グランテック 技術部
鮑巴達拉胡

7月12日のフォローアップ研修には多数の加盟店の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。研修内容は液状化対策プログラムの説明、設計施工事例の共有(偏芯がある場合のピッチの考え方、浄化槽、データばらつき案件の処理の仕方、半自動調査機の扱い方等の4件)、住品協の規定変更の共有でした。質疑応答や意見交換の際には、多くの貴重なアドバイスとご要望をいただきました。



特に碎石補強体の施工長が1.5m以下の場合について、元請けや役所に対する説明が難しいとのことご指摘がありました。こうした意見の相談を通じて、今後もより良い設計施工を目指して参ります。

最後に、研修を通じて私たちが日々学び、問題解決に取り組まなければならないと痛感いたしました。



ふるさとの「夢」を
力強くかなえます。

地元最上(もがみ)に根ざした総合建設業です

国、県発注の土木工事と民間建築工事などを中心に最上地域に根差す総合建設業を展開。長年培った経験と技術を生かして道路や橋梁など地域経済の発展に欠かせないインフラ整備事業に注力し、災害の未然防止や環境保全を図るダム、堤防などの整備にも積極的に関わっています。また、地域住民の快適な生活の実現を目指し、高品質・省コストを追求した住宅の建築に努めています。

株式会社 柿崎工務所

〒996-0025 山形県新庄市若葉町5-5
TEL 0233-22-1537

